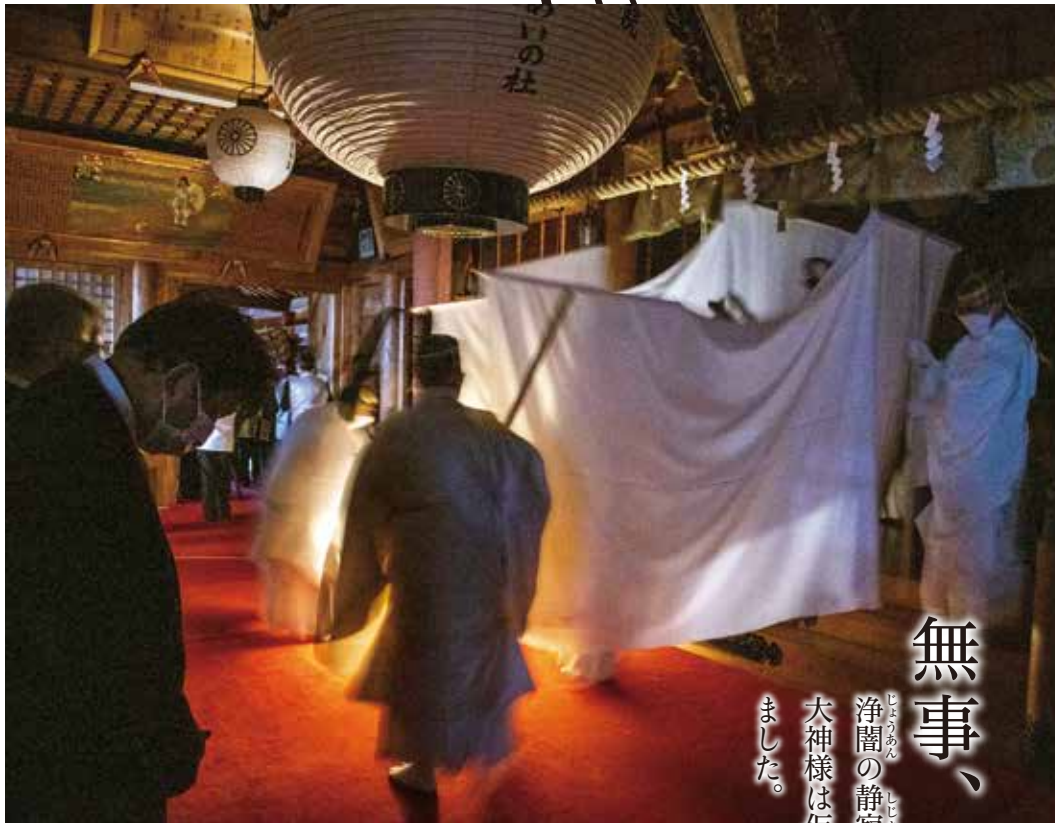


# 越中一宮

<https://www.takase.or.jp>



撮影 本保栄司

## 無事、遷御。

浄壇じょうだんの静寂しじまに響く警蹕けいひつに守られ、  
大神様は仮殿にお遷りになられました。

### 四月・五月の祭事

- 月次祭（毎月一日・十三日）
- 神武天皇祭（四月三日）
- 春季祭（四月十日）
- 昭和祭（四月二十九日）
- 御田植祭（五月下旬）



## 光陰矢の如し

宮司 藤井 秀嗣

時の流れは本当に早い。年齢を重ねると特にそのように感じるらしい。私も部屋にかけてあるカレンダーをめくるたびに強く感じる。昨年まではひと月一枚のものをかけていたが、ひと月過ぎるスピードがあまりに早いのので、今年はふた月一枚のものに替えてみた。そうすれば過行く時間が少しでも遅く感じるのではないかと思ったが、そうはならず、もう二ヶ月過ぎてしまったと、逆に焦りを増す結果となった。

四月は新年度が始まるスタートの月である。誰しも新たなことを計画して、実行しようというワクワクしている月である。私が新年度中に実行しなければならぬ計画は二つ。一つは当社社の屋根葺き替え事業の完成。もう一つは庄川弁財天社の三十三年式年御開扉大祭の斎行である。どちらも大事業ゆえに下準備(段取り)が重要だ。じっくりと時間をかけて万全の体制で臨むことが肝要である。各事業の開始や完了まで、まだ時間があると油断していると、その

日は直ぐにやってくる。切羽詰まって、場当たり的になってしまふと、せつかくの計画が台無しになってしまふ。責任は重大だ。

去る二月二十日の夕刻、御本殿屋根葺き替え工事に先立ち、御祭神に仮本殿にお遷りいただく「仮殿遷座祭」を斎行した。旧職員の神職方、氏子代表の方々に助勢願い、厳かに斎行することができた。その折、私は主祭神である大国様の御神体を奉持した。六十センチほどの大きさの御神体は、初めのうちは重さを感じなかったが、途中から重たくなった。御本殿から参集殿に設えてある仮本殿までのわずかな距離だったので疲れるほどではない。どうして急に重くなった?と不思議だったが、これはさつと、この事業をしつかりとやり遂げるようにとの大国様からのご示唆であり、励みしであつたのではないかと感じている。責任の重さを体感させていただいた瞬間であつた。

また、弁財天社の御開扉大祭は二月に奉賛会発会式が行われ、本格的な準備が始まつた。

七月二十八日から三日間の予定で斎行することになっており、時間が迫ってきている。スピードアップして取り組まなければならぬ。動き始めると思わぬところから協力の申し出があつたり、有用なアドバイスをいただいたり、御神慮ともいふべき不思議な力が働いて、良い方向に導かれているように感じている。

自身のたてた目標や与えられた仕事(役目)の実現に向けて一生懸命努力すれば、大神様は必ず力を与えてくださる。只管に努力することが大切である。

明治天皇御製

いたづらに時を移してことしあれば  
あわたたしくもたちさわぐかな

(口語訳)

平素なすべきことをせず、いたづらに時を過ごして、何かことが起きると、あわてて大騒ぎするものである。

今年も三か月が過ぎた。七月の行事まで約四か月、続く九月の竣功まで六か月。大神様の御神慮に適うべく、いたづらに時を過ごさず、やるべきことをしつかりとして、あたふたしないように心がけ、その日を迎えたいものである。

## 建国記念の日 皇紀2683年

二月十一日、責任役員、高瀬区長他のご参列のもと、「紀元節祭」を斎行しました。今年には「令和五年」、西暦では二〇二三年となりますが、日本には日常的に使われる「元号」の他にもう一つ独自の紀年法があります。それは我が国の基礎を築き国家の安定にお力を尽くされた初代天皇 神武天皇ご即位の年を元年とする「神武天皇即位紀元」。一般的には「皇紀」と呼ばれています。神武天皇が建国を成されてより悠久二六八三年。祭典では我が国の安泰と益々の繁栄を祈念しました。



紀元節祭斎行

ご奉仕いただき  
ました氏子、また  
七十五名の巫女を  
始めとする助勤者  
の心のこもったお  
もてなしは、ご参  
拜の皆様を、あた  
たくお迎えしま  
した。



令和五年 卯年

## 初詣



今年は十二年に  
一度の卯年！。  
飛躍と繁栄を祈  
る皆様に賑わった  
今年の初詣も、関  
係各位のご協力に  
より、大過なく無  
事に実施すること  
が出来ました。

### 初詣句会

#### 福野糸瓜句会奉納句

ロボットに急きたてられて大掃除	中川 英堂
初空へ威を正す杜一の宮	名村 五月
安寧を祈る拝殿初祓	安田 富子
朱の橋の雪や緋袴たくし上げ	梅島くにを
瑞雲の棚引く越の初御空	田上真知子
破魔矢受く松の雪の清々し	有川 寛
神主の声若々し初祓い	上古 眞澄
神獣の卯年まいりや初句会	城宝寿美礼
巫女務む立居振舞孫の春	五十嵐千恵子
菩提寺の若僧と撞く除夜の鐘	有川 公子



### 鬼は外、福は内。

「豆撒きを始めとする様々な「追儼神事」は、季節の変わり目に忍び寄る災いを祓い遣る為の伝統的な神事。今年も高瀬神社では、多くの皆様と共に元気に邪気を打ち祓いました。

尚、節分の日は二月三日とは限らず、翌日の「立春」の日にちによって変わります。昭和六十年より長らく二月三日に固定されてきましたが、令和三年よりしばらくは三年おきに「二日」の年が訪れ、令和七年の節分は二月二日となります。



### 節分祭斎行





活動を続ける井波松風会（前田由美子会長）の皆様には、「剱岳（西村忠作）・「越中一宮高瀬神社を拝す（金井淀風作）」、二曲の吟詠をご奉納いただきました。時代が移ろい、人々の生活様式そのものが多種多様に变化を遂げた今日においても、大神様の御恵みを祈る人々のひたむきな姿は、いつまでも変わることはないでしょう。



高瀬風鳴クラブによる奏楽

## 祈年祭齋行

―豊かな稔りとすべての産業の隆昌を祈念して―

人々の移動や行動にともなう不安定な感染状況に鑑み、引き続きご案内の範囲を縮小しての齋行となった本祭典。石岡敬夫・藤井秀之両責任役員、岩倉保男高瀬区長のご参列をいただき、つつがなく祭祀を厳修しました。



幾年かぶりに降雪量の少ない年始めとなった今年の冬！。境内の残雪もわずかに足元を冷やすばかりの二月十七日、その年の五穀豊穡と産業の発展を大神様に祈念する「祈年祭」を齋行しました。

## 鎮火祭 心を込めて「鎮火の儀」

春とはいえ、いまだ朝晩の寒暖差の大きい三月八日、南砺消防署東分署長 川森秀二氏を始め、南砺市消防団井波方面団長 角地永吉氏、同福野方面団長 川森行雄氏他、平素より地域の安全に力を尽くされる皆様、また関係各位のご参列をいただき、「鎮火祭」を齋行しました。祭典では故実に忠実に、宮司と森田松司高瀬分団長が瓢の水、久恵欣紀、山田哲生各団員が砂と川菜を大前よりいただき、燃え盛る篝火を消し鎮め、あらためて地域の無火災を祈念しました。



鎮火の儀に用いる瓢車に入った水・砂・川菜



鎮火の儀を奉仕する森田分団長と宮司



## 天長節祭齋行

### 皇室の弥栄を祈念して

二月二十三日、天皇陛下のお誕生日をお祝いし、天皇后陛下の今後益々のご健康と皇室の安泰、国民の繁栄を祈念する「天長節祭」を齋行しました。

同二十日の仮殿遷座祭後、最初の恒例祭事となった本祭典、先般、大神様にお遷りいただいた「仮殿」にて、宮司、参列者共に、祈りも新たに真心を込めて玉串を奉りました。

令和5年2月20日  
御社殿屋根銅板葺替え  
仮殿遷座祭齋行

ご助勢いただいた神職各位

戸隠神社 宮司 齊藤 直己殿  
石武雄神社 宮司 河合 正登殿  
金屋神明宮 宮司 綿貫 哲殿  
山見八幡宮 宮司 山森 伸正殿  
白山神社 禰宜 高尾 佳成殿



浄間の静寂、厳かに遷御。  
宵間の風を待つばかりとなった、去る二月二十日午後六時、御社殿屋根の改修工事にともなう「仮殿遷座祭」を齋行しました。

高瀬神社ではかねてより、損傷の進む御社殿屋根の銅板葺替え工事を計画し、既に昨年の夏より功霊殿拝殿及び回廊を手始めに改修作業を進めてまいりましたが、今般、いよいよ本殿屋根の葺替えに着手するにあたり、大神様には一時的に「仮殿」にお遷りいただきました。

高瀬神社での遷座祭は、昭和四十八年に今回同様、屋根の葺替え工事を行なった時以来、およそ五十年ぶりであり、当神社神職・巫女に加え、ゆかりの深い神職、氏子の皆様にご奉仕いただき、無事「遷御の儀」を始めとするすべての祭儀の厳修が叶いました。

今般、仮殿を整えたのは参集殿二階の大広間。既に恒例祭典はこちらにて齋行しており、本年九月二十日齋行の正遷座祭を以て、大神様



は元の本殿にお還りになります。本殿での工事が本格化した折には、仮殿でのご祈禱奉仕も予定しています。



威儀物所役(神様の調度をお運びする役)

太刀 岩倉 保男殿 野守 秀一殿  
弓 岩倉 久範殿 酒泉 義則殿  
鉾 富賀見憲一殿 大和彌壽夫殿  
盾 山田 静夫殿 岩倉 恒夫殿  
翳 寺西 雅典殿 藤井 崇教殿  
奏 樂

高瀬鳳鳴クラブ(大和 秀夫会長)

御社殿屋根葺替え工事起工式

二十四節気「啓蛰」の3月9日、ご本殿屋根の葺替え工事開始にあたり、関係各位のご参列のもと、その起工式を執り行いました。式では本殿及び拝殿の四方を祓い清め、齋主、施工業者のご代表が、工事の安全と順調な進捗を祈って玉串を捧げました。

現在、工事は本年9月の完了を目指して計画通り進行しています。



—お知らせ—  
ご本殿屋根の工事に関しまして、現在はお本殿にて通拝のかたちでご祈禱をご奉仕していますが、作業音量などの都合により、仮殿(参集殿大広間)でのご祈禱となる場合もございますのでお含み置き下さい。



# 御社殿屋根修復事業奉賛者芳名

(順不同・敬称略)

令和四年十一月一日〜令和五年二月二十八日

現在進捗中の本事業に対し、左記の方々より赤誠あふれるご奉賛を賜りました。厚く御礼申し上げます。

- 〔五十万円〕 西田 吉輝
- 〔三十万円二千円〕 南砺市遺族会
- 〔三十万円〕 井波支部
- 〔二十万円〕 山森 伸正
- 〔十万円〕 高田 登
- 農工房長者(株) 林 美佐雄
- 〔八万円〕 富智見将一郎
- 〔五万円〕 伏木神社
- 宮司 尾崎定秀
- 牧印刷(株) 牧 秀輔
- 小西 健雄
- (株)若松 片山 和夫
- 酒泉 義秀
- 大矢 外男
- 吉田 勇一
- 砺波市若林遺族会 末永 篤司
- 〔三万円〕 佐々木 学
- 中嶋 洋子
- 〔二万七千円〕 南砺市遺族会
- 福光支部北山田地区 安丸 詳
- 〔二万円〕 南砺市遺族会
- 福光支部石黒地区
- 野原外茂雄
- 菅原 秀明
- 有川 成正
- 〔一万五千円〕 小泉 由和
- 〔一万円〕 廣島 隆
- 布原 郁男
- 秋元 和行
- 廣島 茂晴
- 七里 龍太
- 得永 真裕
- 川合 富夫
- 井上 恵資
- 森井 孫俊
- 浦嶋 稔
- 西部 英子
- 中嶋 好夫
- 島田 重夫
- 末永 亨誠
- 〔七千円〕 南砺市遺族会
- 福光支部広瀬地区
- 〔五千円〕 南砺市遺族会
- 小出 映子
- 若松 秀樹
- 石野 一男
- 高橋 利彰
- 前田 一
- 中川 勲
- 中盛美 智子
- 増田 侑加
- 野田 Leon.t.7
- 澤村 博之
- 宮森 久三
- 中村 昂嗣
- 伊澤七々恵
- 伊澤八愛乃
- 池田 翔平
- 松原 稔
- 久保 健一
- 小千田 徹
- 佐藤ゆかり
- 吉江サチ子
- 佐藤 純一
- 佐藤 彰良
- 廣田 志帆
- 徳川 達男
- 徳川 仁
- 旗 直樹
- 齊藤 茂
- 中嶋 晶
- 中嶋 正雄
- 中嶋 昭治
- 中嶋 和美
- 中嶋 功治
- 中嶋 幸之丞
- 高橋 和則
- 橋場 剛
- 北川研工業
- 齊藤真由美
- 石附 雅美
- 片山 明浩
- 坂本暖弥子
- 〔三千元〕 松原 昭夫
- 安原 信義
- 山田 昭枝
- 森井 和美
- 村松 勲夫
- 福島 宗尚
- 米田 宗尚
- 金瀬 昭子
- 金瀬 貴子
- 田邊 将伯
- 浦嶋 勲
- 米田美代子
- 山田 省子
- 川邊 忠光
- 田邊那智子
- 田邊 昭代
- 田邊 康宏
- 田邊 由紀
- 田邊 斗和
- 田邊 緒十
- 田邊 一音
- 田邊 将孝
- 草山 翔平
- 小泉 祐子
- 鏡山 英進
- 東田 賢三
- 東田 つる子
- 今川 智之
- 松本 大佑
- 向田 幸正
- 野瀬 政宏
- 高瀬 静二
- 澤田 孝
- 杉森 正法
- 角地 伸幸
- 山城 昌次
- 中盛美 智子
- 寺田 晶子
- 竹田 智治
- 柴田 朋子
- 長谷川 正浩
- 米田 亜依
- 五反 日乃

## 新連載 鎮守の杜 のすたるじい 第1回

昭和四十七年 降魔犬(狛犬) 奉納奉祝行事の思い出 高瀬区長 岩倉 保男

私が子供の頃の村祭りといえば、食べ物の屋台にはしゃいんだり、昼は大衆芝居、夜には屋外で上映される映画に見とれたことなどがぼんやりと思い出されます。

昭和四十七年の秋、森田正治さん、北村文雄さんによって高瀬神社の境内に狛犬が奉納されました。その奉祝行事として、村の長老、役員、青年団を中心としたお祝い行列が村内を練り歩いたのですが、どういふ訳か当時二十一歳の私も、大勢の道化のひとりとして、巫女さん姿でその行列の後ろの方をちよろちよろと歩いて歩いておりました。

「これではまるで俺が芝居役者みたいだな。」などと思ったことが、今では懐かしく思い出されます。

程なくして私は高瀬を離れ、名古屋、東京、長野といわゆる「転勤族」の仲間入りをするわけですが、何気ない日々の中で、ふとそんな愉

快な思い出が頭に浮かぶこともありました。

時は流れ、この高瀬に戻った私は、これまたどういふ訳か、皆さんのご協力を得て区長として働かせていただいております。去る二月二十日には、ありがたくもご社殿の屋根修復にもなう仮殿遷座祭を、他の氏子の皆さんと共にご奉仕させていただき、日常とかけ離れた闇夜の神事に大いに感動致しました。

昭和四十七年の遠いあの日、若い道化のひとりとしてお祭りごとに参加していた私が、今では村の大人として高瀬神社の神事に関わらせていただいている。このご縁に、なんとも不思議なめぐり合わせを感じている今日この頃です。



緋袴姿で神輿を担ぐ岩倉さん(左)

本号より連載をスタートしたこのコラムでは、氏子崇敬者の皆様よりお寄せいただいた、高瀬神社にまつわるとっておきの思い出をばなしをご紹介します。

安産祈願  
戌の日カレンダー

- 4月 10日・22日
- 5月 4日・16日・28日
- 6月 9日・21日
- 7月 3日・15日・27日
- 8月 8日・20日
- 9月 1日・13日・25日

腹帯のお祓いも行いますので、どうぞご持参下さい。



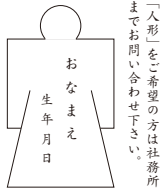
桜詣期間限定のご朱印  
特別な和紙に墨書しています

高瀬神社の境内や大門川のほとりには、この時季やわらかな桜の香りに包まれます。  
社務所では「桜詣」のご朱印をご用意してお待ちしています。

桜の香り、心に元気。  
期間 開花の頃〜十六日(日)

桜詣のお知らせ

**夏越大祓のご案内**  
毎年六月と十二月に行われる「大祓」は、私達が日々を送る中で知らず知らずのうちに犯した罪穢れを祓い、続く半年を無病息災に過ごす為の、我が国に古くより伝わる大切な年中行事です。  
当日は、「人形」に罪穢れを移し、「茅の輪」をくぐることにより祓い清めをします。  
越中一宮高瀬神社の夏越の大祓に参加し「人形」をご希望の方は社務所で、暑い夏を健康に乗り切りましょう。



550個を超える色とりどりの風鈴の共演

あたたかみ、涼しい風鈴を飾り、涼やかな音色をお楽しみいただけます。



夏詣期間限定のご朱印

「大祓」は年に二回行われます。十二月三十一日の「師走の大祓」で罪穢れを祓い清めてから「初詣」に出かけ、新年の平穩を祈ります。  
六月三十日の「夏越の大祓」でも同様に罪穢れを祓いますが、その後あらためて参拝する習慣はありません。そこで、半年が無事に過ぎたことに感謝し、残る半年も平穩に過ごせるよう祈る参拝のことを「夏詣」と呼び、新しい習慣として提唱しています。  
当神社では、この「夏詣」期間、境内に風鈴を飾り、涼やかな音色をお楽しみいただけます。

夏詣 開催

期間 七月一日(土)〜七日(金)



夏の風鈴、秋のみみじなど、高瀬神社では、季節ごとにその風物詩とも言える飾り細工で社殿や境内を彩り、ご参拝の皆様にお楽しみいただいています。

杜のにぎわい

春三月はうさぎ飾りと吊るし雛。そして来たる五月に向けて「端午の節句」の吊るし飾りを準備しています。風薫るやわらかな初夏の陽射しと共に、季節の飾り細工をお楽しみ下さい。





## 大国さまの処方せん ⑧

「場面に応じた適切な、マスク着用・咳エチケットを願います」

南砺市民病院

副院長・救急センター長 栗山 政人

新型コロナウイルス感染症（COVID-19：以下、コロナと略。）が世界で流行しはじめた二〇一九年末から三年すぎました。流行初期には重症肺炎になる怖い病気として認識されるも、国内での流行は一部に限られていました。その後、次第に全国に広がることになりましたが、重症化する割合は減少しています。しかし高齢者や持病がある方には今後も注意が必要な病気で

す。感染対策の基本は、マスクの着用を含む咳エチケットと手洗いです。コロナ流行前からも、風邪やインフルエンザなどが拡大しないように、「咳エチケット」をお願いし

屋外で誰もいないところでは、マスクなしで構わないので、状況に応じた対応が求められます。感染対策のほか、花粉症など、他の理由でマスクを普段から使用している方もおられます。今後も、場面に応じて、適切にマスクを着脱されつつ、お互いが健康に過ごされることを祈念いたします。

栗山 政人 先生

副院長・救急センター長  
石川県野々市市出身  
金沢大学医学部卒業

総合内科専門医。病院内では、内科・総合診療科診療のほか、救急室、ドクターカー、訪問診療、感染対策などに従事されています。

医薬医療の神として知られる大国主大神（大国さま）のご神徳にちなんだこのコラムは、毎回、専門家の方にご寄稿いただき、読者の皆様の生活に役立つ医療知識などを発信いたします。

## 七夕祭並びに技芸上達祈願祭のご案内

古来、「星まつり」ともいわれる七夕は、天の川を挟んで離ればなれの織女星と牽牛星が、七月七日の夜にだけ再会することを許されたという、古くよりの伝承を起源とする風習です。

この日、当社では七夕の神事に併せて、織姫（織女星）の優れた手わざにあやかり、手習い、事の上達を祈願する「技芸上達祈願祭」を斎行します。どうぞご家族お友達、お揃いでお参り下さい。



日時 7月7日(金) 午前10時  
場所 高瀬神社 参集殿

高瀬神社『上達守』  
習い事やスポーツ、芸術などの上達を願うお守りです。  
頒価 800円



### ご奉納御礼

【掛け時計】 塚本 七布殿

上記の方よりご奉納を賜りました。  
厚く御礼申し上げます。

### 社報バックナンバーのご案内

当社社のホームページにてバックナンバーをご覧いただけます。祭典の由緒や行事の沿革など、過去の記事もご参考になさってください。

<https://www.takase.or.jp>

祝祭日には国旗を掲げましょう



御社殿屋根

修復事業  
ご奉賛のお願い

高瀬神社では、経年等により傷みの進行した御社殿屋根の葺き替え工事を実施しております。引き続き、あたたかいご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

《事業概要》

- 一、御社殿屋根銅板葺き替え他改修工事
- 一、工期 令和四年夏より令和五年秋
- 一、募金目標額 五〇、〇〇〇、〇〇〇円
- 一、募金実施期間 令和五年十二月末まで



見事に蘇った功霊殿拝殿の屋根

【辞令】

採用 山本 美生  
巫女見習を命ずる  
令和五年四月一日

表紙写真

二月二十日、仮殿遷座祭。神職、氏子の供奉による「遷御の儀」。幻想的な光景。

編集後記

時折見かける平たいみたらし団子には、タレの付きを良くするというれっきとした理由があるそう。



人形感謝祭のご案内

古くなった人形に感謝し、お祓い、お焚き上げをするお祭り「人形感謝祭」を行います。

役目を終えた「人形」や「ぬいぐるみ」をお持ち寄り下さい。

日時 7月16日(日) 10:00より  
場所 高瀬神社 参集殿  
受付 7月15日(土) 9:00~15:00  
7月16日(日) 9:00~ 9:45  
祈願料 3,000円より  
(手提げ袋1袋程度につき)

第二十三回 人形展 一期一会

期間 七月十五日(土)~十七日(月)  
午前10時~午後4時  
会場 高瀬神社 参集殿

慣れ親しんだ人形とお別れは寂しいもの。ここにはそんな心を優しく癒してくれるひとときがあります。県内外で幅広く活躍する人形作家と、草月流富山県支部秀抱会とが織りなす、創作人形といけばなのあてやかな共演——。



初宮参りにてご昇殿の赤ちゃんに、「歯固め石」をお食べいただきます。「丈夫な歯が生まれるように」という願いを込めて行われる儀式です。希望の方は、お祈り後、ご下

今の世の中、真実を選び取るには、私達も心を平らにして、多くの公平な情報に触れる必要がありそうだ。そして今、花見に団子が付き物なのは、事実。

令和5年7月1日(土) ~ 9日(日) 9:00~17:00

会場 高瀬神社 参集殿

谷口智則展開催  
絵本の世界

©「富士に龍虎図」/谷口智則



# 結びの杜の神前式

縁結びの神様、大國主大神をお祭りする越中一宮。

日常を隔てる境内で、玉砂利を踏みしめて歩く参進の儀に始まり、社殿に響き渡る雅楽の調べの中、厳かな神前式が執り行われます。

大國様の「結び」の御神徳によりお二人だけではなく、両家の絆も固く結ばれます。



四季折々の境内でロケーションフォトを満喫



一日一組限定のおもてなし

完全なプライベート空間で和やかな宴会が実現すべは一組の新たな夫婦の幸福のために



オープンエアなプライベートテラスで開放的な演出が実現



二人の夢が叶いますように

高瀬神社は結婚されるすべての方を歓迎しています。



あなたの人生に、神社がある。

## 越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291  
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 🔍 検索



高瀬神社LINE



高瀬神社HP

発行日 令和五年四月一日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL0763-82-0933 FAX0763-82-1130

印刷所 牧印刷株式会社